



「はなのわペアレント・トレーニング」参加者募集

子どもの行動に「困ったな…」「どうすればいいのだろう…」など、悩みを抱えていませんか。ペアレント・トレーニングとは、お子さんのさまざまな行動に対してどのような対応が効果的なのか、“子どもとの関わり方のコツ”を学ぶプログラムです。親と子がより良い関わり方で家庭生活が送れるよう、同じ悩みを持つ保護者の皆さんと一緒に学んでみませんか。

日時▼6月9日、7月14日、9月8日(全て水曜日、全3回) 午前9時30分～11時

場所▼なごみ・総合支援センター

対象等▼村内在住で、おおむね3歳～小学3年生の子を持つ保護者(先着20人)

内容▼▽第1回…オリエンテーション、子どもの行動を3種類に整理しよう、好ましい行動を増やすには▽第2回…好ましくない行動を減らすには▽第3回…子どもの協力を増やす方法

講師▼根本仁子さん(ペアレント・トレーニングリーダー)

その他▼新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止・延期となる場合があります。

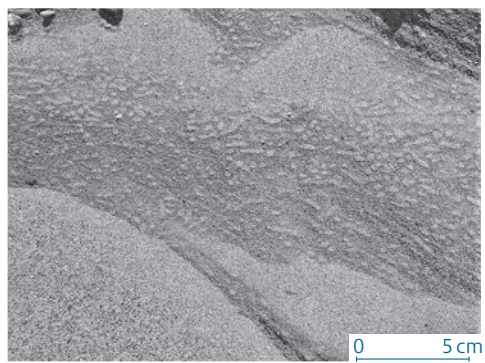
申し込み・問い合わせ▼4月28日(水)から5月12日(水)まで(土・日曜日、祝日を除く)に、電話で、子ども発達支援センター(なごみ・総合支援センター内 ☎282-3443)へ申し込みください。

参加費は
無料だよ!



東海村では、生痕化石の「マカロニクヌス」が産出します。生痕化石とは、生物の生活の痕跡が化石となったもので、代表的なものとして、足跡や巣穴などが挙げられ、その学名は痕跡を作った生物が不明な場合でも付けられます。また、生痕化石はそれ自身が他の場所に移動しないことから、地層が堆積した環境などを知る上で重要視されています。

今回紹介する生痕化石のマカロニクヌス(写真)は、中丸小学校の東南東に位置する宅地造成現場の「見和層」から産出しました。見和層の年代は新生代第四紀更新世で、今からおよそ15万年前頃に堆積したものです。マカロニクヌスは、細礫の混じる砂層中に含まれ、直径が3ミリメートル程度の円筒形をしており、長さが7センチメートルを超える個体も見られました。また、マカロニクヌスは、周囲の砂の粒子よりも細かく、白色で粒子がそろって



【生痕化石「マカロニクヌス」】

付きました。現在では、形成者は浅海に生息する多毛類としています。

マカロニクヌスの分布を見ると、東海村のマカロニクヌスは関東平野で産出する最北の記録と考えられます。また、東海村の大地が深海から始まり、長い年月を経て浅海へと変化したことを示す、重要な化石の一つでもあります。

ふるさと歴訪



～自然を探して～

生痕化石「マカロニクヌス」

歴史と未来の交流館 展示監修委員

理学博士 菊池 芳文

いることも大きな特徴です。

マカロニクヌスは、関東地方に分布する更新世の地層で広く認められます。1972年に菊地隆男博士(東京都立大学・首都大学東京)が、見和層と同年代の千葉県の成田層に見られる白斑状生痕化石を、甲殻類「ヒメスナホリムシ」が形成した生痕として報告しました。その後、ヒメスナホリムシは潮間帯の堆積環境を示す示相化石とされてきましたが、奈良正和博士(京都大学)は再検討を行い、1994年に、甲殻類ヒメスナホリムシの形成説を否定し、マカロニクヌスという学名を